

## ルノワール絵画の魅力、再発見

### 「第129回フランス・アラカルト」開催(3/12)

「生命讃歌〜ルノワールの芸術」と題した南城守理事によるフランス絵画についての講演会が、プロジェクターをそなえたレストラン「菜宴」にて行われました。講演では、ロココ時代・ロマン主義・新古典主義など、ルノワール以前の時代の代表的な絵画作品を概説しながら、ルノワールが若い時からルーブルに通ってそれらの絵画を模写し、誰よりも古典を勉強したこと、つねに絵画の新たな可能性を探究するルノワールの作風が年代ごとに変化していったこと、そしてモネとルノワールの共通点や異なる点等について、とてもわかりやすく解説されました。

もともと陶器の絵付け職人をしていたルノワールは色彩感覚にすぐれ、音楽においても聖歌隊の歌手として非凡な才能の持ち主だったそうです。1864年に「サロン」に初入選して頭角をあらわし、1874年に「印象派展」に参加し70年代後半に多くの作品を出品、同時に「サロン」にも出品して成功をおさめたルノワールは、社交界に出入りしながらたくさんの肖像画を描き、他の印象派の画家たちにはみられないような目覚ましい活躍ぶり、この時期、素晴らしい作品を次々に産みだします。



ジブシーの少女  
1879年



シャルパンティエ夫人とその子供たちの肖像  
1878年

なかでも「ジブシーの少女」(1879)は、南城さんが自らの手で美術館の壁に絵を掛けた時、少女と目が合ったその瞬間、瞳の浮き上がってくるような「黒」の輝きにすっかり魅了され、ルノワールにおける黒の魅力、すべての色彩を輝かせているのはこの黒であると理解するきっかけになった作品であるとの挿話が印象的でした。他にも興味深いお話の連続で、あっという間に時間が過ぎてしまいました。質疑応答では参加者のみなさんが、ルノワールについての自分の経験や観点を述べ、ルノワール絵画の見方がよりいっそう深められました。後日には、「座ったままルノワール展」を解説付きで見ることが出来るなんて、ずいぶん贅沢な時を過ごしたものです」との感想も寄せられました。

講演に続く河野美紀子会員のよし笛演奏では、「遠くへ行きたい」「月の砂漠」「琵琶湖周航の歌」と、「旅」をテーマにした3曲を披露してください、のびのある笛の音色が郷愁を誘いました。(浅井直子)

フランス・アラカルトの貴重な時間をいただいて「よし笛」を演奏でき、良き思い出になりました。よし笛は7年前から始めましたが、最初はヒョロヒョロとした音しか出ませんでした。アラカルト当日は、ちょうど前夜見た5年前の3月11日の東日本大震災の映像を想いおこして、思わず丹田に気合いが入ったようです。よし笛は、吹く息に心を込め、音に乗せることができます。それには、まず人前で演奏するのに慣れること。そうしながら様々な人に会い、結果私の大きなテーマである「生と死」を自分の中で整理したいと願っています。演奏は楽ではありませんが、同時に自分自身を慰めてくれます。大きな流れに身を任せて、気持ちを楽に持つようにしています。(河野美紀子)



### ルノワールの芸術の源泉を求めて

南城 守

「ルノワールの絵画は日本で誤解されているのではないか？」今から30年近く前に、奈良県立美術館でルノワール展を担当し、抱いた率直な疑問がこれです。それまで日本で紹介されるルノワール作品はほとんどが1900年以降のもので、ぼったり、ぼつちやりの女性像が一般的で、お世辞にも上手な画家とは思えなかったのです。しかし、1860・70年代の作品を目にした途端、抱いていたルノワール像が吹っ飛んでしまいました。とりわけ1879年がそうで、繊細優美な筆致で描かれた人物は、まるで陶磁器の肌のように輝いていたのです。「なんだ、この画家は！」これがルノワール探究への誘いとなりました。以後、機会あるたびにルノワール絵画の実物と対峙し創意の源泉を探って来ました。絵付け職人見習い時代、サロンへの憧れと印象派展、サロンでの成功と時代の寵児へ、イタリア旅行と古典絵画への回帰、不遇のアングル時代、そしてリュウマチによる健康障害、さらに変形した腕に筆を縛り付けて描いたという1900年代…。ドラマチックな人生はそのまま画風の変遷でもあったのです。通底するのは生命への讃歌、ルノワール芸術の本質がここにあるのではないのでしょうか。

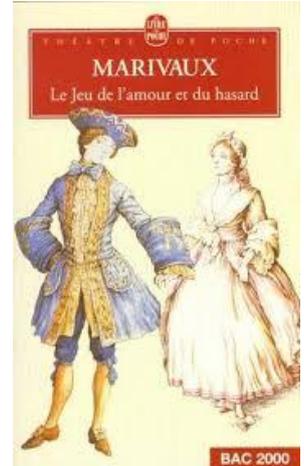
フランス文学の庭から <43>  
名句の花束

三野博司 (会長)

Quand finira la comédie ? (1)

いつ終わるんですか、この芝居は？

(マリヴォー『愛と偶然の戯れ』 1730年)



『タルチュフ』は偽善者に翻弄される父親によって引き起こされた一家の危難を描いていました。この父親の名前はオルゴンでした。愚昧でありながら、家父長としての権力を振りかざし、愛娘をタルチュフに嫁がせようとし、息子に向かっては勘当するぞと脅します。およそ尊敬されるべき父親像とはほど遠いです。

同じオルゴンという名でありながら、マリヴォー『愛と偶然の戯れ』に登場する父親は、ずっと思慮深くて、明察の持ち主です。この名前的一致は偶然ではなく、作者はモリエールの傑作を十分に意識して命名したのだと言われています。『タルチュフ』から66年後、1730年に上演されました。ルイ14世の絶対王政の時代が過ぎて、18世紀に入り、家族のありかたが変化しているように思われますが、実際はそうでもなく、この物分かりの良い父親像はこの時代でも例外的だったようです。

マリヴォー Marivaux は1688年、裕福な貴族の息子としてパリに生まれました。パリの法学部で学びますが、法律の勉強をなおざりにして、文筆家の道を選びます。1720年に発表した喜劇『恋にみがかれたアルルカン』により名声を得て、以後30数篇の喜劇を書きます。なかでも恋愛喜劇が有名であり、恋の発生およびその後の恋に対する主人公の揺れ動く心理を描くのを得意としました。



3幕散文喜劇の『愛と偶然の戯れ』は彼の代表作です。『タルチュフ』については、かつてNHK-BSで放映されたコメディイ・フランセーズによる上演を授業で紹介したと書きましたが、同じ時期にやはりBSで放映された『愛と偶然の戯れ』も楽しい舞台なので、毎年のように授業で見せていました。18世紀の裕福な市民の館が再現されて、いかにもロココ趣味の芝居に仕上がっています。他方で4年前パリに滞在したときに見たコメディイ・フランセーズの舞台は、ずっとシンプルで様式化された装置が設えられ、現代的な演出でした。父親がやや滑稽に描かれて、変装した娘のゲームを楽しんでいる

風だったり、それぞれの人物の演技が過剰で性格付けが強調されていたり、マリヴォー劇に対する新しい解釈がそこに反映しているのでしょうか。色で言うと、やや原色が目立つという感じです。ただ授業で見せたいと思うのは、単に自分の感覚が古いだけなのかも知れませんが、やはりかつての優美なパステルカラー色の演出です。

物語は、オルゴンの娘と、このオルゴン家にやってきた田舎に住む青年の恋ですが、2人はたがいに相手の人物を見きわめようと、召使いと役割を取り変えます。ここでは、変装 *déguisement* が重要な主題となります。登場人物6人のうち4人が第1幕冒頭で変装して、そのまま芝居が進行します。これにより人物それぞれの性格が二重になり、人間関係も複雑化します。コミュニケーションは不透明になり、幾重ものヴェールで覆い隠されて、どこに真実があるのかわからず、人物たちはついには自分のアイデンティティまでも疑い始めます。他人を演じることは、結局自分自身の正体について自問することになるのです。ここには、変装のもつ二重性があざやかに示されています。変装することによって自分自身を隠し、自由にふるまうことができる。しかし、その自由は結局もう一つ別の檻に入ることであり、今度はそこから抜け出すことが困難になります。

引用句は、第2幕第11場、父親に頼み込んで変装ゲーム始めたシルヴィアが、とうとう耐えきれなくなって父に問う場面です。「Quand finira la comédie ? いつ終わるんですか、この芝居は？」(以下次号)

Nos amis francophones à Nara (5) Jean-Noël Polet (ジャン=ノエル・ポレ) さん

Les Japonais sont extrêmement soucieux de l'image de leur pays auprès des visiteurs ou, comme c'est mon cas, des habitants étrangers. Chaque jour au travail, dans la famille, dans le voisinage, des personnes me demandent, avec une sollicitude touchante, si je parviens à m'adapter à ce pays si particulier. Et ce, sur des sujets aussi divers que la langue, le climat, la nourriture, le rythme de vie ou encore les relations humaines.

Un seul élément échappe à leurs questions et, pourtant, c'est probablement celui auquel les Européens ont le plus de mal à s'accoutumer : la densité et la concentration de population. Aucune des villes dans lesquelles j'ai vécu n'atteint le degré de tumulte urbain du Kansai, ses transports en commun bondés, ses magasins surpeuplés, ses artères encombrées.

Aussi, la première fois que j'ai pris le train d'Osaka à Yoshino, j'ai été subjugué par ces paysages à la fois grandioses, mystérieux, silencieux. En à peine une heure, on y découvre le charme de la campagne japonaise en même temps qu'une histoire d'une prodigieuse richesse.



吉野川 la rivière Yoshino-gawa (吉野郡大淀町の六田駅近くにて撮影)

C'est la raison pour laquelle ma femme et moi nous sommes installés à Oyodo il y a 10 ans. Une heure, sans doute est-ce long pour un trajet quotidien. Mais si court pour changer d'univers.

日本の人々は、日本という国が海外からの来訪者の目にどのように映っているか、とても気にかけているのでしょう。それは私の場合のように外国人住民に対しても同じかと思えます。毎日のように、職場でも、家庭や日本の親族との間でも、自宅の近隣でも、人々はとても真摯に私がこの国、こんなにも特殊な国で、問題なく過ごせているか尋ねてくれます。その問いかけは、言葉や天候、食べ物や生活のペース、そして人間関係と、多様なテーマにおよびます。

しかし、そこで話題にならないひとつのことがあります。そしてそのひとつこそが、実はヨーロッパ人にとってもっとも慣れることに難しいことかもしれません。それは多くの人々が一つの場所にあふれかえるということです。これまで私はさまざまな都市で生活してきましたが、どの街も、公共交通機関、商店街にそれぞれのショップ、幹線道路と大阪や神戸、京都など関西の都市の混雑を前には、足下にもおよびません。

それだからでしょうか、当時大阪に住んでいた私が初めて吉野への電車に乗ったとき、その雄大で、神秘的で、静寂な風景に心を奪われました。たったの1時間ほどで、日本の田舎と深く豊かな歴史に出会うことができます。そうしたわけで私と妻は10年前、吉野山の麓の大淀町に移住することにしました。1時間は毎日通勤するには少し長いかもしれません。しかし、それは私を取り巻く世界を変える時間としては短いものなのです。

※ジャン=ノエル・ポレさん略歴：45年前にベルギーに生まれる。2000年から日本に居住。現在、アンスティチュフランセ関西、甲南大学、同志社大学、大阪大学にてフランス語講師。

文化講座「ジャメ先生と漱石の『書簡』を読む」の案内

☆毎月第4土曜(11:00~13:00)に開講(第1回は5月28日) ☆講師：オリヴィエ・ジャメ、浅井直子 ☆教材：毎回プリント配布、岩波文庫『漱石書簡集』 ☆会場・連絡先：講座表参照

「夏目漱石を日仏二カ国語で読む」講座も今年で5年目を迎えます。漱石没後百周年の記念すべき2016年は、昨年に続いて「書簡」をとりあげます。ジャメ先生曰く「フランス人は手紙に特別な愛着があり、手紙は日常生活においても文学作品においても大切な位置をしめている。漱石の書簡には作品とはまた異なる魅力がある。まだほとんど仏訳されていないので、やりがいは大きい」。今年度は6回中の半分にあたる3回にわたって、いわゆる「女子供」への手紙をとりあげ、漱石の女性へのまなざしに触れてみたいと思います。

第1回 5月：夏目鏡子宛て「パリにて」(明治33年10月23日)	漱石 33歳
第2回 6月：高浜虚子宛て「子規追悼」(明治34年9月12日)	34歳
第3回 7月：鈴木三重吉宛て「『草枕』のような主人公ではいけない」(明治39年10月26日)	39歳
第4回 10月：夏目筆子・恒子・栄子宛て「修善寺から」(明治43年9月11日)	43歳
第5回 11月：磯田多佳宛て「うそをつかないようになさい」(大正4年5月3日)	48歳
第6回 1月：和辻哲郎宛て「小説は寝かしておくが好い」(大正5年8月5日)	49歳

フランス語で読む日本古典 : 涙さそう姉弟愛 -大津皇子と大伯皇女- (二上山にちなんだ和歌)

うつそみの人なる我や明日よりは 二上山を弟と我が見む 大伯皇女 (おおくのひめみこ)

【大意：この世に生きている私は明日からは二上山を弟だと思って見るのでしょうか…】 万葉集 巻2-165



謀反の疑いで処刑された大津皇子の遺体が二上山に移された時、姉の大伯皇女が詠んだ歌です。大津皇子は風貌たくましく、人々の信頼を受け、度量広大で、博識、文武ともに優れ、衆望を担っていた人物です。「詩賦の興りは大津より」と評されるように漢詩文に優れていました。天武天皇死去による殯宮(もがり)で、草壁皇子(持統天皇の実子)と決定的な対立が生じその直後、伊勢斎宮だった姉のもとへ密かに赴いたため、謀反(反乱準備)のかどで逮捕されました。早くも翌

Dès demain,  
moi qui demeure ici-bas,  
je veux tenir le Mont Futakami  
pour mon frère en me sentant  
profondément attachée.  
Princesse Ôku  
Man'yoshu 2-165  
(traduit par Nakaura)

日、私邸にて死を賜わり首吊り自殺しました。時に24歳。大津はその前日、次の辞世の歌を詠んだとされています。

ももづたふ磐余の池に鳴く鴨を 今日のみ見てや雲隠りなむ 大津皇子 (おおつのみこ)

【大意：磐余の池に鳴く鴨を見るのも今日限りで、私は死ぬのだろうか…】 万葉集 巻3-416

大伯皇女の哀傷歌の詞には大津皇子の遺骸を二上山に移葬した旨記されています。弟が刑死して後、なお十五年、大伯は存命で、その間、亡き弟のことを思わぬ日は一日とてなかった筈です。(中浦東洋司)

Poème d'adieu  
Aujourd'hui, je jette  
un dernier regard sur les canards  
pleurant sur l'étang  
d'Iware, je dois  
disparaître dans les nuages  
Prince Ôtsu  
Man'yoshu 3-416  
(traduit par René Sieffert)

Qu'est-ce qu'un « Mandala » ? 「曼荼羅」とは？

Le terme mandala est sans doute aussi connu en France qu'au Japon. Pourtant, sait-on bien de quoi il s'agit ? On a en tête des formes géométriques où sont rassemblées des divinités bouddhiques mais on connaît rarement les différences qui peuvent exister entre telle ou telle forme de mandala et leur fonction reste souvent mystérieuse. Les mandalas qui sont en fait essentiellement des représentations symboliques de l'univers sont principalement utilisés dans le bouddhisme ésotérique -ceux du mont Kôya sont célèbres-, cependant d'autres écoles bouddhiques se les sont également appropriés, c'est notamment le cas du superbe mandala tissé du temple Taïma-dera.

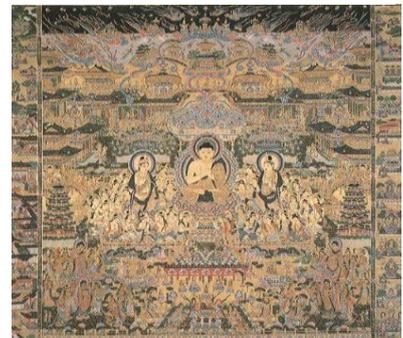
Ce célèbre « Taima-mandala » (Trésor National) qui date de l'époque Nara est une représentation la Terre Pure du Bouddha Amida selon la description qui en est faite dans le Sûtra de la Contemplation (du Bouddha) de la Vie Infinie 観無量寿(仏)経. (Pierre Régner)

曼荼羅という言葉は、日本でもフランスでも知られているだろう。とはいえ、私たちは曼荼羅が何を意味するのか、知っているだろうか？ 幾何学的な形が頭に思い浮かぶ。そこには仏教の神々が集まっている。だが、曼荼羅の形それぞれにある違いはほとんど知られておらず、その役割については多くが謎のままである。曼荼羅は本質的には、宇宙を象徴的に表現したものであり、主として密教において使われているが—高野山の曼荼羅が有名—、他の宗派でも曼荼羅は使われており、特に当麻寺の織物でできた曼荼羅は見事なものである。

この「当麻曼荼羅」(国宝)は奈良時代に遡るもので、仏陀の瞑想による經典『観無量寿経』を描写しており、阿弥陀仏の西方浄土を表わしている。



高野山胎藏曼荼羅



当麻曼荼羅 (平成本・中之坊藏)

(ガイドクラブからのお知らせ)

昨年の「浄瑠璃寺」に引き続き、今年度は「当麻寺」(奈良県葛城市)を訪れます。9月に勉強会、10月に散策を予定しています。行事に参加するしないは別にして、「わが奈良」(Mon Nara)の土地の理解を深めるべく、これから毎回、当麻寺に関する文学・歴史・伝説・宝物・建物などについて、少しずつ紹介していきたいと思ひます。

## Recette des « Roulés de porc farcis au chou »

今回は、会員の小原千賀子さんが「キャベツの豚肉巻き」を紹介してくれました。小原さんによれば「とても簡単で、豚肉とキャベツは相性がいいから味付けもシンプルで、ワインにも合います！」とのこと。ワインだけでなく、日本酒にもビールにも合いそうです。ぜひいちど試してみてください。(編集部)

【材料】(4人分) キャベツ 約300g (1/4個くらい)、塩 10g (小さじ2)、レモン 1/2個、サラダ油大さじ1、こしょう適量、豚肉(薄切りのスライス) 300g、醤油

【Ingrédients】(Pour 4 personnes) 300 g. de chou, 300 g. de viande de porc en fines tranches, deux cuillères à café de sel, un demi citron, une cuillère à soupe d'huile, poivre, sauce soja

①キャベツをせん切りにして塩をふり、もみます。しんなりしたら水分をぎゅっと絞ります。レモン汁を入れ、サラダ油、胡椒を入れて味をなじませます。このままでサラダとして食べられます。保存もできます。

Râper finement les choux, ajouter le sel et bien malaxer. Égoutter bien les choux devenus mous. Ajouter le jus de citron, l'huile et le poivre, et bien mélanger.

On peut manger ces choux en salade. On peut également les conserver au réfrigérateur.

②豚肉を広げ、①のキャベツをのせくるくると巻きます。

Étendre une tranche de porc, y mettre un peu de chou et rouler en forme de tuyau.

③フライパンにサラダ油をひき、焼きます。肉の巻き終わりを下にして焼き始めると、ほどけずにうまく焼けます。最後に醤油を回し入れてできあがり。

Mettre de l'huile dans une poêle, faire revenir les rouleaux en déposant dans la poêle en premier le bout de rouleau. A la fin, verser un filet de sauce soja sur les rouleaux.



## フランス・ワインの紹介 (1)「シャブリ」

今回は初回ということで白ワインの中でもおそらく最も有名で人気の高いシャブリについてお話させていただきます。シャブリとはもともとブルゴーニュの最北端に位置するシャブリ村の周辺でシャルドネというブドウから造られるワインの名称で、現在ではシャブリ村周辺の20の村で生産されています。シャブリ地区は北緯48°という樺太と同じ緯度に位置する内陸の寒い地域の為にブドウが完熟するには厳しい場所で、いいブドウが出来る畑は必ず日当りのいい斜面にあります。シャブリのワインは大きく分けて4つのランクに分類され、グラン・クリュという7つの特級畑とプルミエ・クリュというおよそ40の一級畑、そしてただの村名クラスのシャブリ、そしてシャブリの指定地域外で造られるプティ・シャブリに分類されます。

シャブリ地区の土壌はキリメジャンと呼ばれる石灰岩を主体にしたミネラル分が豊富な土壌で、この土壌がシャブリらしいと言われるミネラル分を感じさせるキリッとした切れ味と複雑味のある味わいを産み出してくれます。また、特級畑やトップ・クラスの一級畑は日照を最大限に受けることが出来る東向きの斜面に存在する為にブドウの完熟度が高まり、キリッとした切れ味を持ちながらしっかりと果実味と十分な旨味を持ったワインを産みだしてくれます。今回紹介したいのは、そんなシャブリの数ある一級畑の中でもトップ3のひとつに数えられる「モンテ・ド・トネール」という畑から、シャブリでも定評のある生産者で、私もフランスに居た時に懇意にしていたコレ家が造り出したワインです(右写真)。グラン・クリュのワインの半分程の値段で本物のシャブリらしさが味わえるととてもお値打ちなワインです。(竹中宣人)



## 2016年度 法人会員紹介

### 「菜宴」

奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F  
Tel : 0742-26-0835 不定休  
近鉄奈良駅から小西さくら通りを南



久保田シェフ

に歩いてすぐ。ランチもディナーも、新鮮な野菜をたっぷり使った様々な料理をお楽しみください!

### 「ビストロ ルノール」

生駒市松美台 33-2 ランドヒルパート IV  
Tel : 0743-75-9555 水曜定休  
近鉄生駒駅から生駒台循環バスで新



北田シェフ

生駒台北口下車すぐ。カウンター10席のみのこじんまりした空間で、本格的なフランス料理を召しあがれ!

### 「サン・ヴァンサン」

奈良市学園朝日町 2-2 米田ビル 102  
Tel : 0742-43-3832 月曜定休  
近鉄学園前駅から北へ徒歩5分。



竹中店長

フランスワインを中心に、3000種類以上のアイテムをそろえています。4月は店内全品10%オフのセールをしています!

### 第 30 回 シネクラブ (2/28) 例会報告



アラン・レネ特集第 2 回目は、『愛して飲んで歌って』(Aimer, boire et chanter, 2014) をとりあげました。演劇作品の映画化ということで、登場人物たちの闊達な台詞の刺激もあったのか、参加者のみなさんの質疑や意見交換が活発に行われ、エンドロールで流れる歌がヨハン・シュトラウスのワルツ「酒・女・歌」であることを音楽好きの方からご教示いただき、映画のタイトルもその歌に由来することを確認しました。最後の場面で映し出される「髑髏」の写真は、人生の喜びを享受しながらも「死を忘れるな(メモント・モリ)」のメッセージの暗示か、エイクボーン原作にはなく、レネらしい演出といえるでしょう。晩年の作品は、本作も含め軽いコメディタッチのものが多くのですが、『二十四時間の情事』はじめとする初期作品では、戦争の記憶を忘却にふすことなく、いかにしたら創造的な映画作品として後世に伝えられるか、ということが明確にテーマ化されていました。生涯を通して一貫したレネの思考が読み取られるような気がしました。(浅井直子)

フランス映画が好きですが日本での上映が少ないので残念です。昨年はジャンヌ・モローの『クロワッサンで朝食を』(Une Estonienne à Paris, 2012) を楽しみました。フランスの巨匠アラン・レネ監督の遺作『愛して飲んで歌って』の例会に参加し、この作品の特色は、映画でありながら舞台演劇の要素が濃く盛り込まれ、全体に非常にセリフが多く、言葉の洪水の中に投げ込まれたような錯覚を感じましたが、これぞフランス映画の醍醐味、個人的には大変満足する映画でした。また、参加者全員が感想を発表するスタイルは、同じ映画でも見方が様々である事がわかり、さらなる興味に繋がるので、素敵な配慮だなと感じ入りました。次回のレネ監督の『二十四時間の情事』も楽しみです。(上田賀代子)



### 第 31 回 奈良日仏協会シネクラブ例会の案内

- ★ 日時：6月26日(日) 13:30~17:00 (総選挙の日程次第で7月24日(日)に変更する可能性あり)
- ★ 会場：奈良市西部公民館 5階第4講座室 (予定) ★ 問合せ：Nasai206@gmail.com tel. 0743-74-0371
- ★ プログラム：「二十四時間の情事」(HIROSHIMA MON AMOUR, 1959年, 90分)
- ★ 参加費：会員無料、一般 300円 ★ 飲み会：例会終了後「味楽座」にて ※ 例会・飲み会とも予約不要

Comment mêler à la réalité des atrocités du 6 août 1945 l'idée du fantasme, de la découverte passionnelle ? En mettant à bas, en premier lieu, toute forme de hiérarchie, celle des classes, celle des races, mais aussi et surtout celle des souffrances.

Deux personnages se croisent dans les rues de la ville japonaise : lui a vécu à Hiroshima même, avait vingt ans lorsqu'Enola Gay fit son œuvre ; elle était à Nevers lors du bombardement, et subissait d'autres outrages, tout aussi violents, ceux des femmes que l'on a punies, tondues, pour étancher la soif de vengeance d'un peuple qui ne vivait depuis quatre ans que d'accusations et de menaces. Ils se plaisent, leurs douleurs et leurs corps s'accouplent.

Le film commence comme un roman de Robbe-Grillet, très cliniquement, passant sans vergogne des images d'archives aux montages des enlacements, et aux couloirs (d'hôpitaux ici) que Resnais affectionne tant. Car un couloir, pour le réalisateur, représente une multitude de portes entrouvertes vers l'inconscient, la mémoire, reproduite par des fulgurances visuelles, une diction parfois étrange, incantatoire et surtout les visages et les corps fuyants d'Emmanuelle Riva et d'Eiji Okada (qui prononce son texte phonétiquement, ne connaissant pas le français).

La fulgurance détruit la narration classique pour recréer celle de l'esprit, plus diffuse, plus opaque. L'idée de l'apparition se développe progressivement, au fil des sons -la musique change parfois du tout au tout en une seconde-, et des répétitions. (Pierre Silvestri)



いかにしたら、1945年8月6日の残酷な現実、に、幻想と情熱的発見の考えを結びつけられるのか？ はじめにあらゆる序列の形態—階級、人種、とりわけ苦しみの形態—をとり壊しながら。二人の人物が日本の街で出会う。男は広島に住み「エノラ・ゲイ」がその破壊力を示した時 20歳だった。女はその爆撃の時、フランスのヌヴェールで別の侮辱に耐えていた。4年間、糾弾と威嚇のなかで暮らしてきた人々の復讐への渴望を満たすため、きわめて暴力的に、処罰され丸刈りにされた女たちへの侮辱である。男と女は互いに惹かれあい、彼らの苦しみと体はつながりあう。

映画は、ロブ＝グリエの小説のように、患者に対する治療のように始まり、実写映像から男女の抱擁への大胆なモンタージュ、レネが愛着を抱く(ここでは病院の)廊下の映像へと移行する。この監督にとって廊下は、無意識や記憶へと通じるたくさんの半開きの扉を表わし、その記憶は、視覚的な閃光や往々にして奇妙な呪文のような発話、そしてとりわけとらえどころのないエマニュエル・リヴァと岡田英次(フランス語がわからないまま台詞を音声として発音する)の顔と身体によって再生される。この閃光は伝統的な語りを壊し、いっそう漠然として不透明な精神の語りを再創造する。超自然的幻視の観点が、音声—音楽は一瞬にして変化する—と反復を通じて、徐々にあらわになる。

## 会員紹介

### « C'est chaud ! » ou « Il fait chaud ! » ?

陶山 淑子(すやま よしこ)

次男がフランスへ転勤したのは約 20 年前のことでした。言葉もほとんどわからずに行って市役所への手続きでは、「Allez!」の一言で追っ払われ、大変な屈辱を味わったと聞いておりましたが、後に訪ねた際には、単車の若者に因縁をつけられ口げんかをするのを見て、かえって半ば安心したこともありました。主人と二人でモンマルトルを歩いていて物乞いの子供たちにつきまとわれた時、主人が次男の話を思いだして、「Allez!」と一言いうと、子供等は散って行ったこともありました。そんな子供の存在を知るのも現地に来ればこそと思いましたし、言葉の重みも感じました。また、南仏リゾートに一週間滞在した時には、車同士が衝突するのを見ましたが、両運転者とも車からおりることもなく、平然とそれぞれに発進するのを見て、価値観の違いを感じもしました。

そんなこんなで、私もフランス語に興味を持ち、ラジオのフランス語講座を聴くようになりました。多少真面目で元気もあった頃のことです。その後、孫の出産の手伝いに行った時、すぐ近く美容院に入りました。次男からは、言葉もわからず何をされるかわからんからやめるよう忠告されましたが、まさかそんな無茶なことないと思い、一人で行って片言で頼んで思い通りにしてもらえました。洗髪の際に「熱い」と言ったら、お湯の温度を下げたかと息子等に話したところ、その「アツイ」は、「暑い」方だと笑われました。何もいわずに「熱い」と理解してくれた美容師のやさしさを感じたものでした。これが初級フランス語の初めての成果でした。フランスのリゾートでは近くの店に一人でよく買い物に行きましたが、こちらが「アリガトウ!」と云って帰るのが何度か続くうち、店のお兄ちゃんも向こうから「アリガトー」と云ってくれるようになりました。ほとんどフランス語なしでも、いろいろ心の触れ合うこともあるのだと、感じたりしたものです。

次男が帰国して 10 年も経ち、初級講座の万年受講生という状況になり、今ではラジオ講座は BGM のようなものになっています。にもかかわらず、会報 Mon Nara やイベントを楽しみにして、恥ずかしながら会員に加えていただいております。今後ともよろしくお願い致します。

## ワインの勉強を本場フランスで

竹中 宣人(たけなか のりひと)

大阪で生まれながら、料理人だった父親の仕事の関係で、10 歳の時に関東に引越し、中 1 の途中までを埼玉県の川口で、その後フランスに渡るまでの 17 年間に横浜で過ごし、中学・高校時代は野球部、大学ではラグビー部に所属する体育会系人間でした。大学卒業後、広告代理店に勤めたのですが、学生時代にアルバイトをしていた飲食店のオーナーの誘いを受け、新卒 2 年目の 12 月末に退社し、レストラン業界に転職致しました。

レストランでは 1 年半程働いたのですが、ワインを本場のフランスで勉強したいという思いが抑えられなくなりました。初めの 1 年間はベルギーでフランス語の勉強をしながら独学でワインを学び、その後ワインの本場ブルゴーニュに移り、さらに 1 年間ディジョンの学校でフランス語の勉強を続けながら、ワインの勉強を続けました。学校の授業が終了した時、ブルゴーニュ郊外の小さなシャトーを買収して現地事務所を立ち上げた会社に、運良く駐在員として採用され、その後さらに 2 年半ブルゴーニュに滞在して、時間を作ってはいろんな地方のワイン産地を訪ね歩いて、ワインの勉強を続けました。

1991 年の末に帰国して、はじめは東京のワイン専門店に 4 年程勤務しました。その後、家庭の事情で関西に転居することになり、奈良の地に移り住むことになりました。関西に移ってからワイン関係の会社で仕事をしておりましたが、2002 年に酒類販売の免許を取得し、東生駒に奈良初のワイン専門店をオープンしました。東生駒では 9 年半ワインショップを続けましたが、4 年余りにワインを販売する上でより立地に恵まれた場所を求めて、現在の学園前に移転しました。その際、たまたま 2 軒並んで店舗が空いていたので、一大決心してワインショップの隣にワインバーを併設しました。さて、今年度から奈良日仏協会に法人会員として入会させていただきました。会員のみなさま、学園前方面に来られることがありましたら、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

(奈良市学園朝日町 2-2 米田ビル tel. 0742-43-3832)



## 第 130 回 フランス・アラカルト「ジャン・ルノワールの映画『ゲームの規則』を熱く語る」の案内

- ❖ 日時：2016 年 5 月 29 日（日）13:30～17:00      ❖ 会費：会員 100 円、一般 300 円
- ❖ 会場：奈良市西部公民館（TEL: 0742-26-0835 近鉄学園前駅南改札口すぐ）4 階第 2 会議室
- ❖ 問い合わせと申込先：Nasai206@gmail.com tel & fax : 0743-74-0371（浅井）
- ❖ ゲスト：檜原恒一郎さん（略歴）昭和 7 年生まれ。京都大学法学部卒。学生時代は映画研究会に所属し精力的に上映・執筆活動に携わる。三菱銀行勤務。清酒の月桂冠副社長。奈良日仏協会元理事。現在、奈良シネクラブ代表。
- ❖ 檜原さんからのメッセージ：今回ご紹介させて頂く『ゲームの規則』は印象派の巨匠オーギュスト・ルノワールの息子ジャン・ルノワールの作品です。父オーギュストの豊潤で官能的な人生と自然の親和を豊かな色彩で描く素質を受け継いだジャンが軽妙洒脱に描く人間喜劇。同時にこの作品は映画史の転換点とも言うべき映像視点を創造した画期的な映画でもあります。お話を存分に楽しんで頂きながら、一緒にジャンの映像について語り合いたいと思います。



## 仏検 2016 年度春季試験 実用フランス語技能検定試験 申込受付中！

- 1 次試験 2016 年 6 月 19 日（日）（1・2・準 2・3・4・5 級）
- 2 次試験 2016 年 7 月 17 日（日）（1 級・2 級・準 2 級の 1 次合格者対象）
- 申込受付期間（郵送）：2016 年 4 月 1 日（水）～5 月 18 日（水）消印有効  
（インターネット）：2016 年 4 月 1 日（水）～ 5 月 25 日（水）23:59 まで
- 試験会場：奈良女子大学他

## 会員通信

★今年度新たな法人会員として、ワインショップ「サン・ヴァンサン」が入会してくださいました。「菜宴」「ビストロルノール」とともに、会員の皆様の応援よろしくお願い致します。（事務局）

## 《2016 年度第 1 回理事会報告》

……事務局

日時：2016 年 3 月 17 日（木）15:00～16:30 場所：Café WAKAKUSA 2 階  
出席者：三野、野島、井田、濱、中浦、中辻、高島、藤村、浅井  
議題 1. 2016 年度 3 月の暫定会員 97 件（今年度新入会員 3）。  
議題 2. 1/14 理事会後の活動：総会・懇親会(2/11)。2016 年度フランス・アラカルトは事務局で企画・運営。第 128 回フランス・アラカルト(1/29)「フランス演劇：『タルチュフ』」。第 129 回フランス・アラカルト「フランス絵画：ルノワール」(3/12)。第 30 回シネクラブ例会(2/28)「愛して飲んで歌って」。  
議題 3. 今後の行事：第 130 回フランス・アラカルト「ルノワールの映画『ゲームの規則』を語る」(5/29) 開催承認。放送大学と共催の「登美南教養セミナー：『星の王子さま』を読み解く」(6/22, 29) 日仏協会会員募集枠 20 名確保。秋の教養講座は 11 月 23 日（祝・水）、放送大学奈良学習センターにて、中浦理事を講師に「ワイン」をテーマにした講演会。議題 4. Mon Nara 議題 5. その他：HP の更新状況。  
次回理事会 5 月 19 日（木）15:00～16:30 放送大学奈良学習センター Z308 にて。



**編集後記** ☆3 月末に吉野の西行庵跡を訪れました。いわゆる吉野の「奥千本」にあって、最後は細い山道をつたっていきました。まもなく迎える花の季節を前にして、木々や周囲の山々はひっそりとして静寂に包まれ、近くには今も水が湧き出る「苔清水」がありました。西行(1118-1190)はこの吉野の山に 3 年ほど暮らしたそうです。☆「願わくば花の下にて春死なむその如月の望月の頃」《Puisse le ciel / me faire mourir au printemps / sous les fleurs des cerisiers / au deuxième mois / quand la lune est pleine》の和歌はよく知られています。☆一方、フランスではパリ南郊外にあるソー公園 (Parc de Sceaux) が桜の名所として知られ、毎年 4 月中旬にはお花見のイベントがにぎやかに催されているそうです。☆咲き始めの桜に時間の流れや新しい季節の訪れを感じるもよし、満開の桜の下でお弁当を広げるもよし、散りかけた花びらを肩に浴びて桜並木を散歩するもよし、月の光に照らされる桜の木を観照するもよし、古来より桜はわたしたちに様々な楽しみ方や感じ方をもたらしてくれます。(N. Asai)

- ◆当協会では**会員を募集**しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ◆本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。次号は **5 月 31 日**が原稿締切日です。

Mon Nara mar-avr 2016 **3-4 月** 合併号 numéro274

奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP : <http://www.afjn.jp> E-mail : [nara.afj@gmail.com](mailto:nara.afj@gmail.com) FAX : 0742-62-1741

〒630-8226 奈良市小西町 19 マリアテラスビル 2F 野菜ダイニング菜宴【郵便物のみ】発行責任者：三野博司